

愛知県認知症サポーターステップアップ研修会

認知症当事者の 意思決定支援



国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター
企画戦略局リサーチコーディネーター
進藤 由美

本日のお話

0. 自己紹介

1. 意思決定支援とは・・・？

2. 意思をどのように確認するか

3. 認知症サポーターとしてできること



意思決定支援 とは・・・？



そもそも、「意思」とは？

- 「意思」と「意志」

意思	「思い」に重点を置いて使用する言葉。「何かをしたい」という気持ちを表現するときに用いる。 動機と近い意味があると考えられ、法律用語としても使われることが多い。 例文:相手の意思に任せる、患者の意思を尊重する
意志	「あることがらを行いたい、または行いたくない」という考え。 目的や計画を選び、それを実現しようとする心持ち。 例文:どんな困難があっても自分の意志を貫く

引用:マイナビニュース (<https://news.mynavi.jp/article/20210407-1792202/>) 検索日:令和4年1月23日

Point!

認知症の人の**意思**決定支援

→ 認知症の人の「**思い**」に重点を置きます



「認知症」とは？

「一度正常に達した認知機能が後天的な脳の障害によって持続的に低下し、日常生活や社会生活に支障をきたすようになった状態を言い、それが意識障害のないときにみられる。」

(出典:日本神経学会「認知症疾患治療ガイドライン2010」p1、2010年、医学書院)

【代表的な疾患と代表的な症状】

- ・アルツハイマー型認知症： 記憶
- ・血管性認知症： 障害を受けた部位による
- ・レビー小体型認知症： 幻視、歩行
- ・前頭側頭型認知症： 感情のコントロール、常同行動



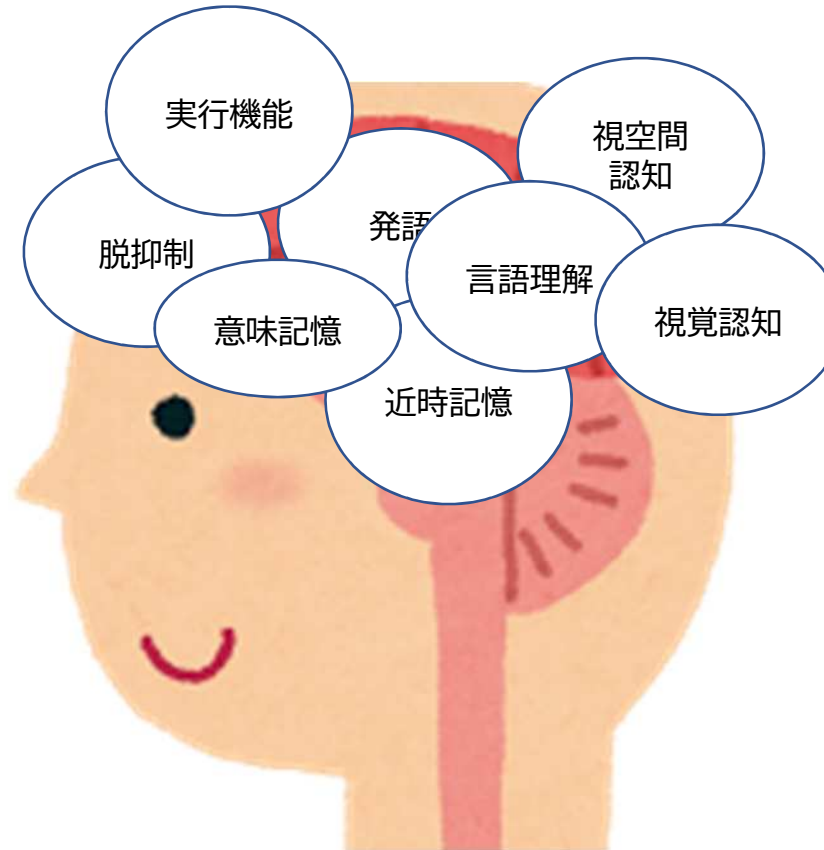
脳の働きと認知機能障害

実行機能(物事を順序だてて行う)
=行動やIADLに影響

言語理解、発語
=コミュニケーションに影響

脱抑制(衝動や感情の
コントロール)
=社会生活に影響

近似的記憶
意味記憶(知識、言語と
その意味等)
=コミュニケーションや
行動に影響



視覚認知
(見えたものを認識)
視空間認知
(距離や大きさを認識)
=運動や行動に影響

脳の障害の程度により1人1人、症状の出方が異なります！



本人の意思確認

- 認知症の人は「認知機能障害」があることにより、意思決定が難しい場合があります

記憶の障害：必要な情報の記憶が難しい

実行機能の障害：見通しが立てづらい

言語理解・発語の障害：言葉の理解や発語が難しい

障害のある部分を理解し、 障害への支援を行いつつ、
日常生活や社会生活において自らの意思に基づいた
生活を送ることができるよう支援



意思決定支援の3要素

- 本人が意思を形成することの支援
- 本人が意思を表明することの支援
- 本人が意思を実現するための支援

家族や専門職の意思が優先されていないか



日々の決定～命に関わる決定

命・人生に関わる決定

延命をするか 遺産の配分
胃ろうの設置

Point!
人の人生は様々な
「決定」の積み重ね

どこに住むか 仕事
どのような介護サービスを利用するか

趣味

日々の決定

夕飯のメニュー

今日着る服

お風呂に入るか

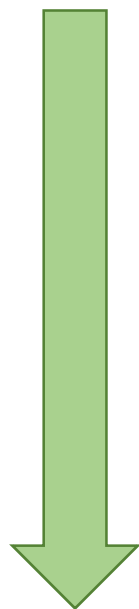


意思をどのように 確認するか



認知症の症状と支援

- 認知症は病気の進行に伴い段階的に進行する



- MCI (軽度認知障害)
- 初期認知症
- 中度認知症
- 重度認知症

- 段階に応じ、必要となる支援は異なる



(参考) 海外の状況

イギリス : 「Mental Capacity Act (2005年)」

1. 人は、意思決定をする能力を有しないという証拠がない限り、誰でも自分で意思決定をする能力を有するとみなされる
2. 人は、意思決定をするための支援や、意思を表明するための支援を受ける権利を有し、それがうまくいかなかった場合にのみ、意思決定ができないと判断される。



まずは「意思を形成」する支援

- どのような選択肢があるかを知らなければ、意思を形成することはできません
- 選択肢をわかりやすく示しましょう!

<身近な具体例>

× 「夕飯、何食べたい？」

○ 「夕飯、お蕎麦とうどんはどちらがいい？」

→ 「暖かいものと冷たいもの、どちらがいい？」

→ 「上にのせるのはわかめがいい？それともお揚げ？」

* 選択を徐々に狭めていくと、より細かい点も確認できます。

* 「選択肢」は必ずあります。

(汁やネギの量、七味をふるか、水かお茶かなど)



意思の「表明」の確認方法

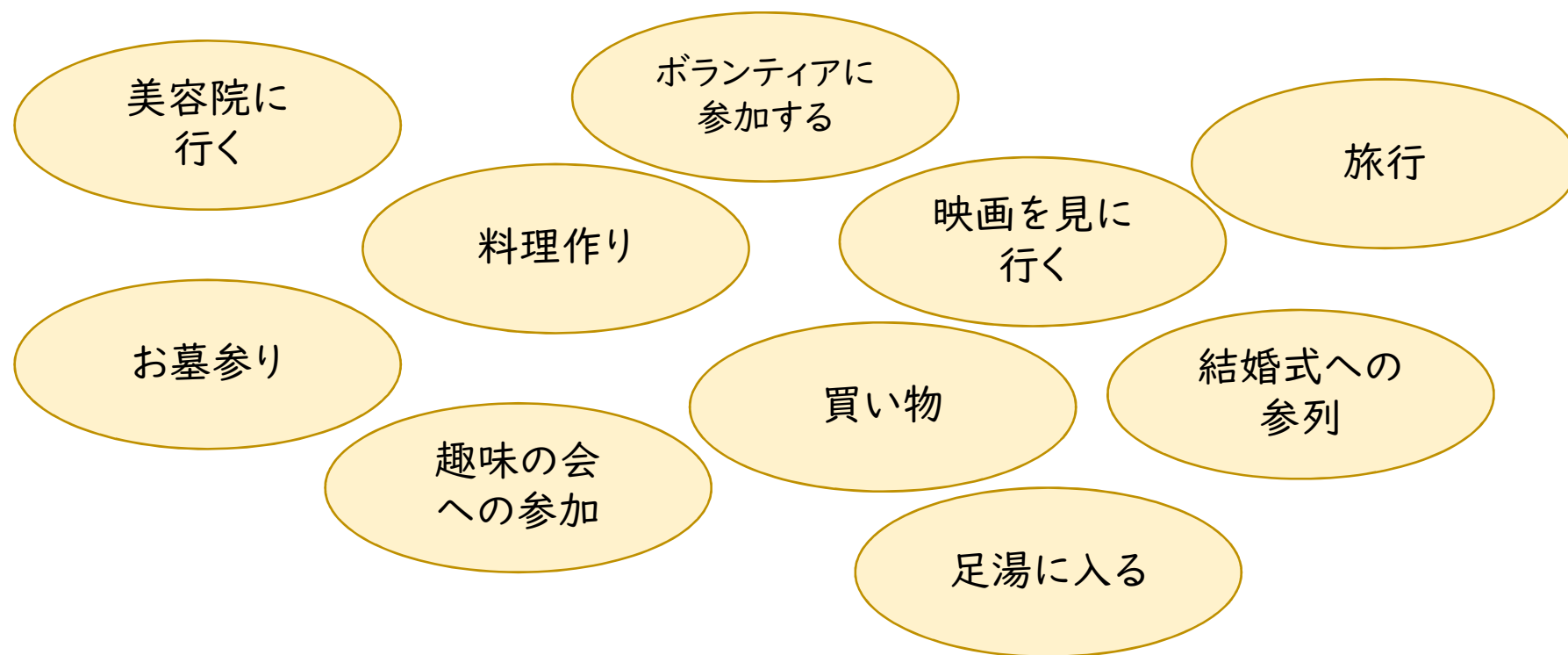
- 言葉：最も一般的
それだけではありません!!
- 表情、視線、身体の動き等の、
「ノンバーバルコミュニケーション」で確認できます。



認知症 サポーターとして できること



認知症の人たちの「～したい」



医療介護福祉の専門職や公的機関の職員だけで
これらの「～したい」を叶えることは難しいです



認知症の人を支える地域の「仲間」

医療介護福祉や公的機関の仲間たち

介護保険事業所
居宅介護事業所
相談員、ケースワーカー、PSW
医療機関
かかりつけ医、専門医
薬局、薬剤師
栄養士
PT、OT、ST等
市役所、社会福祉協議会
保健センター、福祉事務所

警察、消防署、消防団
弁護士・司法書士、市民後見人
消費生活センター

家族会

認知症の人の生活を取り巻く仲間たち

銀行、郵便局
商店街、コンビニ、スーパー
ショッピングセンター
レストラン、飲食店
電車、バス、タクシー
ガソリンスタンド
宅配業者、新聞販売店

友人、地域住民
民生委員、自治会長、福祉協力員
老人クラブ
ボランティア
大家、管理人
子ども、学生
PTA

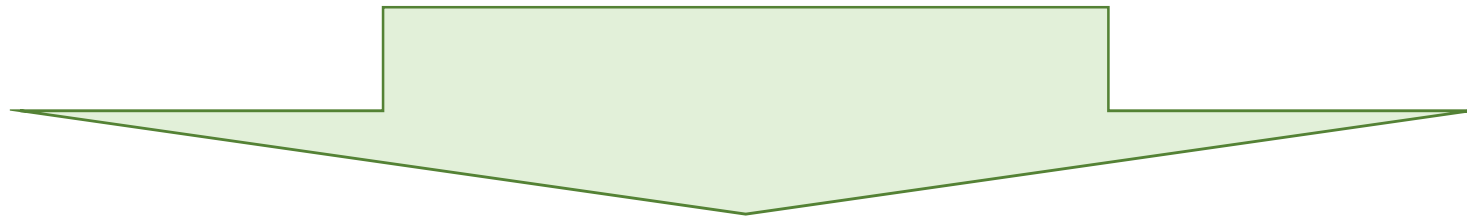


「手遅れ型支援」から「備え型支援」へ

様々な生活上の不都合や困りごとが出てきてからの支援

⇒ 不都合や困りごとへの対応が中心

例：火の不始末の防止、服薬や栄養管理の徹底 など



本人の希望や願いを叶え、支える支援

⇒ 本人の望む生活を支える対応が中心



認知症サポーターに期待されること

【認知症サポーター】

- 認知症について正しい知識を持ち、認知症の人とその家族のあたたかく見守る応援者となること、自分のできる範囲で活動することが期待されています

地域で・・・	職場で・・・
<ul style="list-style-type: none">➤ 困っている様子の方に対し、声をかけたり、警察等に連絡をする➤ 介護者に対し、ねぎらいの言葉をかける➤ 無理のない範囲でボランティア等に参加する	<ul style="list-style-type: none">➤ 介護をしている上司・同僚・後輩に理解を示す➤ 業務で関わる人たちに配慮する（お客様や取引先の人に認知症の人やその家族がいらっしゃる）



認知症の人と接するとき、相手の方のペースに合わせ、
選択肢を示すことで、その人の「選択」を支援していきましょう
→ 難しい時は無理をせず！

